



2022年度
国際キャリア教育プログラム

国際キャリア教育 事前学習資料集

主 催：大学コンソーシアムとちぎ 宇都宮大学
後 援：(公社)栃木県経済同友会 (公財)栃木県国際交流協会、
NPO 法人宇都宮市国際交流協会 いっくら国際文化交流会 JICA 筑波センター
協 賛：(公財)あしぎん国際交流財団
特別協力：宇都宮市創造都市研究センター

目次

(敬称略)

目標とルール	1
はじめに	2
実施要綱	4
プログラム	5
倫理綱領・個別ガイドライン・問題事例	6
「全体講義」との講師の紹介（重田 康博）	
混迷の時代の国際キャリアを考える－真のグローバル人材に必要な条件	8
分科会 A と講師の紹介（黒崎 めぐみ）	
自分に何が出来るか、改めて考えてみよう！	10
分科会 B と講師の紹介（粕谷 直洋）	
教育×ビジネスの可能性を探る	12
分科会 C と講師の紹介（岩井 俊宗）	
違いを強みに変えるコミュニケーション	15
分科会 D と講師の紹介（菊池 礼乃）	
「自分らしい」キャリアを作っていく	18
分科会 E と講師の紹介（川面 充子）	
気づこう！無意識の思い込みが生活や職場に与える影響	20
分科会 F と講師の紹介（申 惠媛）	
「多文化」が「共生」する社会とは？	22

●目標とルール

国際キャリア教育セミナーの参加者はルールを守り、目標の達成に向けて励んでください。

目標

- 「働く」とはということなのかについて考える。
- 自分と地域社会や世界とのつながりについて考える。
- 主体的に関わりたい分野を見つけ、今後の学びに向けた“きっかけ”を得る。

ルール

- どんな意見も臆せず、積極的に発言しよう。
- 一人ひとりが参加者の自覚をもとう。
- 異なる意見を尊重するとともに自分の意見をもとう。
- 自分独自の意見を述べよう。
- 多様な発想を生み出す雰囲気をつくろう。
- 時間厳守で行動しよう！
- 安全、健康に注意をしよう。

●はじめに

国際キャリア教育プログラムに参加される皆様

国際キャリア教育運営委員会 委員長
国際学部国際学科 教授
吉田 一彦



宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ、そして全国の大学生、社会人の皆さん、国際交流に関心がある高校生の皆さんも、国際キャリアについて考えたことがありますか。

大学時代に、就職活動に入る前に、国際キャリアのプログラムに参加してみたい、国際的な問題に対応する職場や海外で国際インターンをしてみたい、あるいは今、政府、企業、大学で叫ばれている、「グローバル人材」の育成のためのプログラムに参加してみたいと思う方がいるかもしれません。

そのように考えている皆さんのニーズに応えるのが、グローバルマインドを養う「国際キャリア教育プログラム」です。本プログラムは、宇都宮大学国際学部や栃木県の大学が中心になって2004年から毎年実施され、参加者数は過去18年間合計約1940名（宇都宮大学1178名、外部参加者762名）となっています。2020年より、新型コロナウイルス感染症流行への対応のためのオンライン化によって、海外からの参加も可能になり、英語でセミナー全体を行う「International Career Seminar」へは、本学交流協定校であるペラデニヤ大学(スリランカ)およびサラワク大学(マレーシア)から多数学生の参加があり、国際交流実体験の場としての学修効果を生んでいます。

このプログラムの科目は、学生が生きることや働くことの意味について考えるという点で共通の「国際キャリア教育」(日本語によるセミナー)と、「International Career Seminar」(英語によるセミナー)、そして、国内や海外の企業、公的機関、NGO・NPOでインターンシップを行う「国際キャリア実習」の3科目、6単位で構成されています。いずれも夏季と春季の休業期間に行われます。2つのセミナーはどちらも3日間の集中講義形式で、共通テーマを「グローバル化時代の地域とキャリア」とし、「地域からのグローバル化(Globalization)」、「地域のグローバル化(Glocalization)」の2つの柱を立て、国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの4つのテーマで分科会を構成します。各分科会のためには、その道のプロの専門家や講師を揃えています。一方、総時間数80時間で行われる「国際キャリア実習」のためには、国内・海外の魅力的で個性的な研修先を用意しています。3科目すべての履修を勧めますが、1つか2つを選択して受講することも可能です。

「国際キャリア教育プログラム」は、毎年宇都宮市や栃木県内だけでなく、全国から優秀な大学生、社会人が多数参加します。皆さんもこのプログラムに参加して、国際キャリアについて一緒に学び、国際社会や地域社会への「キャリアパス」の可能性を探っていきましょう。

最後に、本プログラムは、栃木県からの支援を受けて、大学コンソーシアムとちぎとの共同事業として企画しましたが、その実施に際しましては、(公社)栃木県経済同友会、(公財)栃木県国際交流協会、NPO 法人宇都宮市国際交流協会、いっくら国際文化交流会、そして、JICA筑波センターからご後援をいただきました。また、(公財)あしぎん国際交流財団からはご協賛、宇都宮市創造都市研究センターからは特別協力をいただきました。ご関係の皆様からの多大なご理解とご支援に対し、主催者を代表して、厚くお礼申し上げます。

●実施要綱

- 1) 科 目 名 : 国際キャリア教育 2022
- 2) テ ー マ : グローバル時代のキャリア形成を考える
- 3) 日 程 : 2022年9月23日(金祝)～25日(日)
事前指導 : 2022年7月19日(火) 18:00-19:30
- 4) 実施形態 : Zoomによるオンライン授業
- 5) プログラム : 4頁を参照
- 6) 参加定員 : 50名
- 7) 参加費 : 無料 ※ネットワーク通信料等は自己負担となります
- 8) 問 合 せ : 宇都宮大学 峰キャンパス事務部国際学部係 (5号館C棟1階)
担当 : 佐藤
<所在地> 〒321-8505 宇都宮市峰町 350
<問合先> TEL: 028-649-5172 (直通) FAX: 028-649-5171
E-mail: kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

●プログラム（敬称略）

事前指導（7月19日 火曜日）

時 間	内 容
18:00～18:45	受付、全体会事前指導
18:45～19:30	分科会事前指導

セミナー1日目（9月23日 金曜日）

時 間	内 容
09:00～09:30	受付
09:30～09:50	開講式・オリエンテーション
09:50～12:00	全体会（全体講義・ブレイクアウトセッション）
12:00～12:50	昼食
13:00～15:00	パネルトーク「グローバル時代におけるキャリア形成について」
15:10～15:30	趣旨説明（分科会および全体発表のプレゼン方法の説明など）
15:50～17:50	分科会 1 ----- 分科会 A「国際ビジネス」 講師：黒崎 めぐみ ----- 分科会 B「国際ビジネス」 講師：粕谷 直洋 ----- 分科会 C「異文化理解コミュニケーション」 講師：岩井 俊宗 ----- 分科会 D「国際協力・国際貢献」 講師：菊池 礼乃 ----- 分科会 E「ジェンダー」 講師：川面 充子 ----- 分科会 F「多文化共生と日本」 講師：申 惠媛

セミナー2日目（9月24日 土曜日）

時 間	内 容
08:30～12:00	分科会 2
12:00～12:50	昼食
13:00～15:30	分科会 3
15:30～16:30	分科会 4（分科会まとめ・中間発表準備）
16:30～17:30	中間発表
17:30～18:30	分科会 5（発表準備）

セミナー3日目（9月25日 日曜日）

時 間	内 容
08:30～10:00	発表準備
10:00～12:20	全体発表
12:20～13:10	昼食
13:30～15:00	ふりかえり・閉講式

1. 国際キャリア教育プログラム倫理綱領

本プログラムの関係者は、以下の原則に従って行動します。

- ① その活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重します。
- ② 国際学部並びに本プログラムの教育目標の実現に資する教育を行うために、改善と向上に努め、学生の自発的な学習を支援します。
- ③ 学修目標を明確に示し、学生への対応や成績評価などの学生指導全般において、公正を確保します。
- ④ 個人情報の保護に最大限の注意を払います。

2. 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をお願いいたします。

- ① 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な参加者で構成されているプログラムであることに留意しつつ行動します。
- ② 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重し、可能な限り対応します。
- ③ ハラスメントに該当する行為は決して行いません。
- ④ ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応します。
- ⑤ 参加者による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れます。

3. 具体的な過去の問題事例

(事例にある「参加者」とは、講師、スタッフ、学生等の参加者全員を意味します。)

事例 1) 国籍による差別発言

ある参加者から「A 国人は物を盗む」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

ある参加者が、男性的な服装をしている女性の参加者に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー¹であるその女性参加者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

ある男性参加者が懇親会で他の参加者に酒を飲むようにしつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性の参加者に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

事例 4) 主体性や協働を認めない教育

分科会において講師が一方向的に講義を続けたり、一部の参加者のみが発言を独占する事態が発生した。その結果、学生たちが主体的に協力しながら行う議論や全体発表準備のための作業時間を、十分確保することができなかった。

¹ トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014年より）。

事例 5) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

ある参加者が、他の参加者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

混迷の時代の国際キャリアを考える

—真のグローバル人材に必要な条件—

☆講師プロフィール

氏名：重田 康博（しげた やすひろ）

所属：宇都宮大学 国際学部 客員教授

前国際キャリア教育運営委員会委員長



略歴：

北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了（博士・学術）。国際協力推進協会（APIC）主任研究員、クリスチャン・エイド客員研究員（イギリス・ロンドン）、NGO 活動推進センター（現、国際協力 NGO センター、JANIC）主幹等を経て元宇都宮大学国際学部教授（2007-2022）、専門は国際開発研究、国際 NGO 研究。JANIC 政策アドバイザー、アジア・アフリカ研究所理事、JVC とちぎネットワーク代表。福島原発震災に関する研究フォーラム・アドバイザー。著書に『NGO の発展の軌跡』（明石書店 2005）、『国際 NGO が世界を変える』（共著、東信堂 2006）、『開発教育—持続可能な世界のために』（共著、学文社 2008）、『激動するグローバル市民社会—慈善から公正への発展と展開』（明石書店 2017）、『グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための 7 つのヒント』（共著、2017 明石書店）、『SDG s 時代のグローバル開発協力論』（編著、明石書店 2019）、『日本の国際協力 アジア編—経済成長から「持続可能な社会」の実現へ』（編著、ミネルヴァ書房 2021）、他。

全体講義の内容

今世界は混迷の時代と言われています。その混迷の時代を生きるための真のグローバル人材とは何か、その必要な条件を具体的な事例を示しながら紹介し、国際キャリア形成について考えます。

★最初に、混迷の時代とはどのような時代なのかを説明します。

21 世紀は 9.11 米国同時多発テロに始まり、今日まで世界のいたるところで、未曾有の危機が発生しています。米国などの主導による経済のグローバリゼーションの進行により、かつての先進国と途上国間の格差だけではなく、同じ国の中の富者と貧者、都市生活者と農今世界各地で、国家の分断、孤立、難民・移民の排除、自国第一主義とポピュリズムの波が押し寄せ、第 2 次世界大戦後世界の多くの国が目指してきた、「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の危機が叫ばれています。

このような「国際協調主義」と「共生・包摂・寛容な社会」の崩壊の危機の中で、NGO・CSO（市民社会組織）も含めたグローバル市民社会による多元主義の再構築と公共圏の形成が求められています。

この危機をどのように乗り越えるのか、どのように「国際協調主義」と「共生できる寛容な社会」を取り戻せるのでしょうか。混迷する時代を生きるためにグローバル人材をどのように育成すればいいのでしょうか。

★次に、「グローバル人材」とは、何かを説明します。

では、「グローバル人材」にはどのような能力が求められるのでしょうか。2011年6月文部省「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ」では、そのポイントとして、「語学力向上（英語）」と「内向き志向」の克服で、その取組みは「英語」と「海外体験」となっています。しかし、この「英語」と「海外体験」だけで今の混迷の時代を生きるグローバル人材を育てられるのでしょうか？

☆宇都宮大学グローバル構想—「地域からのグローバル化」「地域のグローバル化」に貢献

☆国際学部国際学科において養成する人材像（改組に伴い2017年4月から実施）

⇒21世紀型グローバル人材（グローカル人材）の育成

☆国際学部の卒業生は、その多くがグローバル企業、マスコミ、NGOなどで働き、国内外で活躍しています。

★最後に、地球公益を目指す「グローバル（地球）市民」について説明します。

「グローバル（地球）市民」として生きるためには、「グローバル（地球）市民社会」の育成が必要だと思います。つまり、「国際協調」を超えた「地球公益」を求めていく人間や社会を育て、「非寛容社会」から「寛容社会」への価値観の転換が求められています。

☆国連による「持続可能な開発目標（SDGs、Sustainable Development Goals）」は、2015年9月の国連総会で採択され、17の目標と169のターゲットからなり、2016年から2030年までの15年間世界の国々はこの開発目標の達成に向けて取り組み、その達成のために、国際機関、国家、企業、NGO・CSOが問題の解決に向けて取り組むことが求められています。

☆「地球公益（地球市民のための公益、Global Public Interests）」とは、公正な地球社会を求める世界の人々のための非営利活動です。その根底にあるのは公正、寛容、包摂、共生、多様性、多文化です。「地球公益」を求めることは、グローバルマインドを養い、グローバル人材を育成することだと思います。

参考文献

- 駒井洋監修/五十嵐泰正・明石純一編著『「グローバル人材」をめぐる政策と現実』明石書店、2015年
- 加藤／九木元『グローバル人材とは誰か 若者の海外経験の意味を問う』青弓社、2016年
- 重田康博『激動するグローバル市民社会—慈善から公正へ発展と展開』明石書店、2017年
- 友松篤信『グローバルキャリア教育—グローバル人材の育成』ナカニシヤ出版 2012年

自分に何が出来るか、改めて考えてみよう！



☆講師プロフィール

氏名：黒崎 めぐみ（くろさき めぐみ）

所属：NHK 宇都宮放送局 局長

略歴：

平成3年、東京大学文学部英語英米文学科卒業後アナウンサーとしてNHKに入局。名古屋局、大阪局、東京アナウンス室、編成局等を経て令和2年8月より現職。

キャリア形成の中で一番影響を受けたのは1989年に報じられた世界の様々な出来事です。特にルーマニア革命はかつて住んでいた国だったこともあり大きな衝撃を受けました。

1. 仕事の概要

NHKに入ってから27年間は主に放送の現場でアナウンサーの仕事をしていました。

放送コンテンツをどうすれば多くの人に、分かりやすく届けることが出来るのか、試行錯誤する日々の中で「日本語」の奥深さ、難しさ、そして素晴らしさも体感しています。

編成局時代は組織について広く考える仕事を中心でした。「コロナ禍でのメディアのあり方」「持続可能な働き方」も追及してきました。現在は宇都宮放送局の局長として、「地域に頼りになっていただける、あって良かったと思っただけの公共メディアとして」何が出来るのか、職員全員とともに考え、チャレンジを続けているところです。

2. キャリアパス

大学の専攻は英語英米文学科でした。小さい頃は「英語の先生になりたい」と漠然と思っていたので、英語の教員免許も取っています。放送に興味を持ったきっかけは「親しみがあるし、楽しそう」という単純な理由からでした。自分の小さい頃からを振り返り、「何をしたいのか」色々考えた中で「放送局で子供向けの英語番組を作りたい！」と思うようになりました。ただ、ゼロから生み出す「ディレクター」よりは「表現を磨いて伝える」仕事に次第に魅力を感じるようになり、最終的に「アナウンサー」として社会人生活をスタートさせました。

仕事内容は幅広く、学ぶことの多い充実した日々があっという間に過ぎていった感じです。

3. 分科会の内容

自分のキャリアを考えていく中で一番大事なのは「自分を知ること」だと思います。

ただ自分で考えているだけでは幅が広がりません。分科会では参加した皆さんの考えから様々な発見を

して、自分がキャリアを考えていく中で必要な事を自分自身の力で見つけていただきたいと思います。

4. 事前に調べてほしいキーワード

- 最近気になる世界のニュース・話題
- 最近気になる地元のニュース・話題
- 現時点で目指している自身のキャリアについて（漠然としていてもかまいません）
- 上記キャリアを決める上で大切にしたこと（3点ほど）

5. 参考資料等

特にありませんが、情報収集の際、NHKのサイトも色々ありますので参考までに記載します。

- 国際ニュースをわかりやすく世界の最新情報を掘り下げた特集や解説記事などをまとめた特設サイト
NHK 国際ニュースナビ 世界の最新情報をわかりやすく
https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/
- 日々のニュースや特集記事、地域の情報など
NHK ニュース 速報・最新情報
<https://www3.nhk.or.jp/news/>
- 実際に就職活動をしている大学生向けのサイト
NHK 大学生とつくる就活応援ニュースゼミ | ニュースや時事問題が1からわかります
(nhk.or.jp)
https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/
- NHK 宇都宮放送局のHPにも栃木の情報を掲載しています。
NHK 宇都宮放送局
<https://www.nhk.or.jp/utsunomiya/index.html>
- 過去の番組なども見られます。
NHK アーカイブス
<https://www.nhk.or.jp/archives/>

6. 事前予習用リーディング課題

特にありません。上記のサイト等を見て、自身のキャリア形成について考えておいてください。

教育×ビジネスの可能性を探る



☆講師プロフィール

氏名：粕谷 直洋（かすや なおひろ）

所属：株式会社 SKT 教育事業部 部長

CAN!P 代表

略歴：

2009年に宇都宮大学を卒業後、公文教育研究会に7年間勤め、国内、海外で経験を積む。2016年に福岡へ移住し現職へ。「自ら考え、選択・決定できる子」を育てるべく、民間学童事業を中心に、幼児、小学生向けに様々な教育サービスを手がけている。2021年度にグロービス経営大学院でMBAを取得。2児の父で昨年5ヶ月間の育休取得

1. 仕事の概要

・概要

幼児は小学生向けの民間の教育を仕事としています。現在は民間の学童保育や、英語教室などの学習塾を運営する会社の経営に携わっています。

・仕事の面白さ

なんといっても子どもの成長に関わることができることです。働いた成果がこれほどわかりやすく、やりがいを感じることができる仕事はないかもしれません。また預けてくださる保護者からの感謝の言葉も、仕事のモチベーションになっています。現在は立場上、直接子どもと関わることは減っていますが、経営サイドとして、子どもの成長を促す環境をどう作るかが面白さの一つです。

・仕事の意義

教育という仕事は、人の成長を後押しする仕事です。また大きな視点で見れば国造りにも貢献するとも言えます。一人一人の子どもたちと向き合い、成長をサポートしていく中で、自分自身も成長させることができる非常に意義のある仕事だと思っています。

2. キャリアパス

【学生時代】

元々教員志望でしたが、浪人時代に出会った講師の影響で、国際関係にも興味が沸き宇都宮大学国際学部に入學。国際協力を研究テーマにして活動していた中で、貧困解決における教育の重要性を感じていました。教育実習を経て、新卒で教員になることに疑問が沸き、民間での就職を決意。就職活動はグローバルに活動ができる分野で行い、教育で海外進出している公文教育研究会に就職しました。「教育で世界平和を」というビジョンにも共感したことも大きな志望要因でした。

【社会人 1.0】～新卒で民間の大手教育会社へ～

「30歳までに海外に行く」を目標に、がむしゃらに働き、30歳で目標を達成しましたが、その後の目標が定まらず、迷走していました。自分が当時やりたいことは、子どもの成長に直接関わることだと思い、31歳で転職を決意しました。（当時は改めて教員を考えていました。）会社の哲学であった「悪いのは子どもではない」「子どもの可能性の追求」は今でも仕事の原点となっています。

【社会人 2.0】～社員 5名の中小企業へ転職～

ふとしたきっかけで、転職し福岡へ移住。民間学童保育「きりんアフタースクール」の事業を立ち上げ、3年後には事業部の責任者となりました。社内の他のビジネスにも関わり、徐々に経営サイドへの役割が増えていきました。直接子どもの成長に関わり、かつ経営にも関われる環境は充実していました。一方で経営の知識や経験がない中で苦勞の壁にぶつかることも多々あり、仕事をしながら、経営大学院に通うことにしました。

【社会人 3.0】～自分の目指す教育を創る～

立ち上げた事業が成功し、後任に引き継いだタイミングで、第2子が誕生し、5か月の育児休暇を取得しました。大学院も無事卒業し、2022年4月に復帰と同時に、社内で次なる挑戦として、CAN!Pというブランドを創設しました。このブランドでは、「達成感」「驚き」「感動」を感じることができる「！」な体験を届けることをビジョンに掲げ、探究型スクールやアドベンチャー事業を展開しています。

3. 分科会の内容

分科会では私の話を聞くよりも、皆で議論、実践を中心に進めます。教育をテーマにして、皆で議論しながら、実際に教育ビジネス提案を作ってもらう予定です。その実践の中で、「仕事とは」、「社会貢献とは」、「ビジネスという手法とは」について一緒に考えていきます。

教育は人を創る上で欠かせないものです。時代に応じて求められる教育も変わり、21世紀に入り、世界各国も教育を変化させています。一方で日本の学校教育は少しずつの変化があるものの、いまだ「言われたことを早くこなす昭和型の教育」から抜け出せていない印象があります。グローバル人材を育てる中で、学校の教育が全てではありません。放課後やオンライン、フリースクールなど様々な教育のカタチが存在します。民間でできること、また持続可能なビジネスとして成立させる方法を一緒に考えてみたいと思います。

4. キーワードリスト

- ソーシャルビジネス
- 人生100年時代
- 21世紀型スキル（21世紀型教育）

5. 参考資料等

- リンダ グラットン他「ライフシフト」東洋経済新報社、2016
- キャシー・ハーシュ＝パセック他「科学が教える、子育て成功への道」扶桑社、2017

- 安宅和人「シンニホン」NewsPicks パブリッシング、2020
- ポールタフ他「私たちは子どもに何ができるのか」英治出版、2017
- 平成 29・30・31 年改訂学習指導要領（本文、解説）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

6. 事前予習用課題

見ておいてほしいサイト

- 10 分で読める『ライフ・シフト 100 年時代の人生戦略』
<https://type.jp/tensyoku-knowhow/skill-up/book-summary/vol6/>
- 家庭教育新聞 OECD 教育 2030 を公表 “生き延びる力” とは
https://www.kknews.co.jp/post_ict/20180305_1b
- サイモン シネック：優れたリーダーはどうやって行動を促すか
<https://www.youtube.com/watch?v=qp0HIF3SfI4>
- CAN!P WEB サイト（私の立ち上げたブランド紹介サイトです。）
<https://canp-edu.jp/>

違いを強みに変えるコミュニケーション



☆講師プロフィール

氏名：岩井 俊宗（いわい としむね）

所属：特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事

略歴：

1982 年生まれ。栃木県宇都宮市出身。2005 年宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別 SOS に従事。

2008 年より若者の成長機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの加速を目的に、とちぎユースサポーターズネットワークを設立。2010 年 NPO 法人化。代表理事を務める。その他、認定 NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県協働アドバイザー他、多数。

1. 仕事の内容・研究テーマ

若者の力を活かして、地域の課題解決・活性化を加速することを使命とし、若者の挑戦と新たな力・新たな変化を求める地域の現場をつなぎ、育むプログラム開発・コーディネート事業を実施。

【独自事業】実践型インターンシップ GENBA CHALLENGE(2012～)、ソーシャルグッドスタートアップキャンプ「iDEA→NEXT」(2012～)、ソーシャルビジネスセミナー(2014～)

【受託開発事業】宇都宮大学課題発見・解決型インターンシップ(2013～)、栃木県 UJI ターン促進事業「はじまりのローカルコンパス」(2015～)、宇都宮市起業家精神養成講座「起業の実際と理論」(2015～)、那須烏山市ローカルベンチャー育成事業(2016～)、栃木県地域づくり担い手育成事業(2016～)、宇都宮大学 宇大未来塾(2017～)、コカ・コーラジャパンボトラーズ CSR 事業「ミライ×キャンパス」(2017～)、栃木県創業プロデューサー事業(2019～2021)、栃木県グリーンツーリズムネットワーク組織づくり事業(2020～)、那須烏山市民話デジタル配信(アニメーション制作)事業(2020～2021)、那須烏山市山あげ祭り新たな映像化事業(2021～2022)など街の新たな事業開発実施や触媒機能を担う。

創設か 12 年、関わってきた 20 代～30 代の若者は、37,515 人(活動時間 138,024 時間)を越える。その内、自らの意志と力で課題に立ち向かう起業した若者が約 60 組輩出。また組織の次の一手を創り出す現場に若者が長期間参画する実践型インターンシップや行政施策のプログラム開発など、多様な組織に若者の力を取り入れた変化を提案・実施するプログラム開発と運営、それらを通じて化学反応として新たな価値を創出する「触媒」の機能を持ったコーディネート力は、他県からの講演依頼や『ソトコト』などの全国紙にも取り上げられることを踏まえ、高いものと自負している。これらの実績から、変化を創り

出していくコーディネート事業に加え、若者と民間企業、また行政(国、県、市)、大学、をパートナーとし協働による事業推進をしていることが独自性であると捉えている。

<受賞歴> 中小企業庁表彰 創業機運醸成賞 (2018.2.9、全国 22 団体)、
下野新聞社「とちぎ次世代の力大賞」奨励賞(2018.5)
栃木県経済同友会「社会貢献活動賞」(2020 年)
北村地方創生担当大臣視察 等

2. キャリアパス

1982 年宇都宮生まれ。4 人兄弟(長男)、7 人家族。幼少期は、ガキ大将。森に基地を創って遊ぶ。小学生：サッカーに打ち込む。夢は、冒険家と医者。中学生：バスケットボール(部長)に打ち込む。生徒会長→リーダー的役割を主体的に捉えるようになる。

高校生：JRC 部。2 年の夏、赤十字派遣でネパールへ。3 週間現地で井戸掘り、学校見学、献血事業視察。→将来、“途上国で働く”ことを描き、現地の日本人の駐在員にどうしたらその仕事に就けるか手紙を書く。そのお返事に“大学生で世界の勉強してください。英語プラスもう 1 ヶ国語”→大学に行く意味を見つける。→地元、それができる大学→宇都宮大学国際学部へ進学。

大学生(宇大国際学部、友松研究室)：NGO マネジメント、住民主導の開発を専攻。2 年生くらいから国内問題にも目を向ける。特に NGO・NPO などの市民による社会課題解決に可能性を感じるものの、職業として成り立っていない現状→“NPO・NGO で飯を食うモデルになる”と自分に旗を立てる。

2005 年大学卒業後、ボランティアコーディネーターとして、NPO・ボランティアを支援する宇都宮市民活動サポートセンター入職。制度では支え切れない SOS(年間 100 件程度の相談)に、ボランティアチームを組み対応する。その中で大学生等若者が関わると突破できる数多い体験から、2008 年若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し若者による社会づくりの促進を目的にした事業を行うとちぎユースサポーターズネットワークを設立。2010 年 NPO 法人化。現在代表理事を務める。

現在 40 歳、妻(国際学部同級生)13 歳の中一息子、7 歳の小 1 娘と 4 人暮らし。学生時代の趣味は、国内外を旅すること(屋久島、ママチャリで富士山・成田空港・レインボーブリッジ、アメリカ、韓国、マレーシア、シンガポール、ベトナム)。

3. 分科会の内容

- 違いを強みにしていくためのコミュニケーションとして、質問力、言葉の意図を読み解く力、建設的に意見を積み上げていく思考、相手の HAPPY を提案していく力を養う。
- 演習(ワークショップ)を通じて、実践的にコミュニケーションを重ね、自身のやりたいことの実現に向けて仲間の力を借りていくこと、またそれが相手に対しても HAPPY に感じられる提案を創り出していく。
 - コミュニケーションとは何か。
 - 人が喜びを感じるメカニズム、マズローの 5 つの欲求、ジョハリの窓など。
 - アイデアを形にしていくプロセスと提案書の作り方

4. キーワードリスト

- コーディネート
- ダイバーシティ
- 価値創造

5. 参考資料等

特になし。

6. 事前予習用リーディング課題

- 自身の自己紹介をご用意ください(氏名、所属、大学で学んでいること、分科会を選んだ理由、将来の展望、今回持ち帰りたいこと)

「自分らしい」キャリアを作っていく



☆講師プロフィール

氏名：菊池 礼乃（きくち あやの）

所属：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
事業サポート課 課長

略歴：

大学卒業後、一般企業、イギリス留学（修士号取得）、NGO や国際機関でのインターンを経て、2011年にシャンティに入職。ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所のプロジェクトマネージャーとして7年間難民支援に携わる。帰

国後、2018年10月より事業サポート課に配属、2019年7月より現職

1. 仕事の内容・研究テーマ

日本の国際協力 NGO で働いてから 10 年になります。最初の 7 年間は、タイとミャンマーの国境にある難民キャンプで教育支援事業に従事し（うち 2 年間はインターン）、図書館事業の計画、実施、モニタリング・評価などの事業運営、カウンターパートや関係団体との事業調整、研修交流受け入れ、現地職員の人材育成などに携わりました。その後 3 年間は、東京事務所から海外事務所をサポートする立場で、アジア 6 か国での教育事業の管理、資金調達、アドボカシーネットワークへの参画、研修交流の調整などを担っています。

これまで子どもの教育、読書推進、難民支援に関心を持ち、NGO の事業を通して、現地住民、現地行政、海外事務所職員、日本の支援者（企業、個人）と協働しながら、貧困や災害、紛争下にいる子どもたちが安心して学べる環境や機会を作ってきました。現場での課題の洗い出し、その解決に向けた事業の形成、関係者と調整した上での事業実施、成果やインパクトを確認するための評価などの事業運営の過程の中で、様々な壁にぶつかることもありますが、それを仲間と共に試行錯誤しながら乗り越えたときの達成感や、受益者から喜びの声や子どもたちが楽しく学ぶ姿を見聞きすることの嬉しさは、NGO 職員として働くことの大きな励みになっています。

2. キャリアパス

父が日本人、母が韓国人の家庭に生まれ、幼い頃から海外や自分のルーツに関心を持っていたものの、高校生までは海外との接点がありませんでした。大学生になってはじめて国際協力の道を知り、日本と韓国の若者がアジアで識字教育支援に携わることを通して日韓の歴史の壁を乗り越えることをミッションとした NGO でボランティア活動をはじめ、自分がやりたいことはこれだと思い、将来的に国際協力の道で働きたいと思うようになりました。その後、周りの助言もあり、一般企業で 3 年間働きましたが、やはり国際協力の道に進みたいと思い、国際機関や NGO でのインターン、海外の大学院への留学

を経験しました。その中でも、タイとミャンマーの国境の現地 NGO でインターンをしてきた時に、自身が難民でもある同僚から、難民や移民の若者が抱えるアイデンティティの課題や教育への強い思いを聞く中で、彼女の問題は自分の問題だと感じ、それから難民・移民支援、教育支援に携わりたいと思うようになったことが今でも自身の関心の中心にあります。その後、シャンティ国際ボランティア会のタイ・ミャンマー国境の難民キャンプでの図書館事業に関わるインターンに応募し、2011年3月に入職しました。それから7年間、20代後半～30代半ばにかけて、インターン、調整員、プロジェクトマネージャーとして現地の図書館事業に携わり、さらに、現地で結婚、出産をしました。子どもが2歳になる頃に、これまでとは異なる立場で国際協力に携わりたい、子どものアイデンティティ形成や教育の場を日本に移したいと思い、帰国しました。帰国後は、東京事務所からシャンティの海外事務所の事業管理や資金調達などに関わり、人道支援、開発支援の中での教育事業をサポートしています。

3. 分科会の内容

国際協力への関わり方が多様である今、この道でキャリアを作っていく第一歩は、自分はどんな課題を解決したいのか、どのような立場に関わりたいのか、自分の強みは何か、自分に向き合って考えることだと思います。国際協力 NGO を中心に、国際協力に関わるアクターやその役割、変化する国際協力業界の今を紹介しながら、社会課題の解決に向けて、自分自身がどのように関わっていくのか、ワークやディスカッションを通して一緒に考えていきたいと思っています。

4. キーワードリスト

- 国際協力
- NGO
- SDGs

5. 参考資料等

- デイビッド・ヒューム著、佐藤寛監訳『貧しい人を助ける理由—遠くの子とあなたのつながり』日本評論社、2017年
- 紀谷昌彦・山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- 小松太郎編著『国際緊急人道支援のキャリアと仕事—人の命と生活を守るために—グローバルキャリアのすすめ』国際開発ジャーナル社、2020年
- 松本悟・佐藤仁『国際協力と創造力 イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社、2021年
- 国際協力 NGO センター (JANIC) 『NGO データブック 2021 数字で見る日本の NGO』外務省国際協力局民間援助連携室、2022年 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100312453.pdf>
- 平成30年度 外務省 NGO 研究会『2030年を見据えた日本の国際協力 NGO の役割—3つのあるべき姿と10のアクションプラン—』 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000477259.pdf>

6. 事前予習用リーディング課題

- 5～10年後の自分が、どこで、どういう立場で、何をしたいのかを考えておいてください。

気づこう！無意識の思い込みが生活や職場に与える影響



☆講師プロフィール

氏名：川面 充子（かわづら みつこ）

所属：宇都宮大学 ダイバーシティ研究環境推進本部

特任助教

略歴：

三重県出身、法政大学院政策創造研究科にて雇用・人材育成の政策学を学び、女性管理職登用について研究。栃木県男女共同参画センターで広報・調査研究事業に携わり、その後地方議員 2 期務め、2013 年より宇都宮大学男女共同参画推進室に勤務。yoga でワーク・ライフ・インテグレーションを実現しています。

1. 仕事の概要

宇都宮大学は、平成 24 年に男女共同参画推進室を設置して以来、学内の男女共同参画意識の醸成と共に、女性研究者の仕事とライフイベントの両立支援に取り組んでいます。平成 30 年には、多様性向上の観点からも女性研究者が活躍でき、そして、誰もが個性と能力を発揮できるように「ダイバーシティ研究環境推進本部」を立ち上げ、私はそこに所属しています。 <http://diversity.utsunomiya-u.ac.jp/image/image01.png>

そこでは、教職員のワークライフバランス推進のための環境整備はもちろん、研究者の子育て・介護と研究の両立や女性研究者のリーダー育成、理系分野における女性活躍推進、次世代系女子育成など様々な活動をしています。また、基盤教育科目「ダイバーシティ社会の中の男女共同参画」授業を学問と実践で教えています。「頼まれ事は試され事」をモットーに、お声がかかればどこにでも出かけ講演・社会活動を行っています。女性労働・育成をテーマに研究をしています。

2. キャリアパス

私の両親は共働きでした。当時両親の年代（昭和 4 年と 8 年生まれ）が共働きをしている家庭はめずらしく、私はお母さんが日中家にいる家庭がとても羨ましかったのを覚えています。女子校育ちの共働き世帯ということもあり、社会に出るまで男女の差異など感じたことはありませんでした。

転機 1：就職（20 代～） 現実社会を知る

1986 年男女雇用機会均等法が施行され、まもなく三菱化学㈱に就職しましたが、女性はお茶汲みで始まり茶碗洗いで終わる、25 歳で寿退社する（クリスマスケーキ）など不思議なルールが出来上がっていました。ここでは、お茶汲みと茶碗洗いを廃止し、結婚して子どもができるまで働き続けました。

転機 2：夫の転勤（20 代後半～） キャリアブレイク★¹

当時、夫の転勤に妻はついていくものだ、となんの疑問も持たず栃木県にやってきました。長時間労働は

当たり前、よって、育児はワンオペです。働くキャリアと縁遠くなった私は、社会活動に参加し、その後とちぎ男女共同参画センターで広報・調査研究事業担当で働き始めました。キャリアと聞くと仕事上での経歴や経験を浮かべるとは思います、広く定義をするとキャリア＝生き方です。私は、このキャリアブレイク中、たくさんの社会活動に参画したが、次のステップにつながったと思います。

転機3：夫の海外単身赴任（40代前半～） チャレンジ

夫が海外単身赴任となったのをいい事に、地方議員を2期(8年)務めました。ここでは、政治分野に女性参画が少ない理由が身をもって実感することができたと同時に、物事を決定する場所には多様な視点が必要であることを痛感しました。その後数年は、議員と本学コーディネーター「二足の草鞋」で仕事をし、常に机上の空論にならないよう今までの経験を糧に大学院で学び直しをし、現在に至っております。

★1 キャリアの中断を肯定的に捉える「キャリアブレイク」という考え方

3. 分科会の内容

女性活躍、ジェンダーと聞くと、女性の問題とされていた（る）ことこそが、今の日本の男女格差につながっていると考えます。性別に関係なく、みんなで一緒に考えていくことが必要です！

男女共同参画基本法第2条には、「男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会」と記されています。にもかかわらず、やりたいことに参画できないのはなぜ？ その理由の一つに無意識の思い込みが影響していると言われていています。例えば、私は子どもを産んでからもバリバリ仕事をしたいのに、上司がさせてくれない。5時半退社なのに誰も帰らない。これらのどこに無意識の思い込み・固定概念が潜んでいるのでしょうか？ その思い込みがどのような事柄に影響するのか？ どう対応していけばよいのか？ をみなさんと一緒に考えていきましょう。

4. キーワードリスト

アンコンシャス・バイアス、ジェンダーギャップ指数（GGI）、固定概念、ジェンダーバイアス

5. 参考資料等

- 野村浩子・川村昌（2019）「組織リーダーの望ましさとジェンダーバイアスの関係－男女別、階層別のジェンダー・バイアスを探る－」
- ジェニファー・エバーハート「無意識のバイアス 人はなぜ人種差別をするのか」明石書店 2020
- 男女共同参画学協会連絡会
https://www.djrenrakukai.org/unconsciousbias/see_bias_block_bias/index.html

6. 事前予習用リーディング課題

- 男女共同参画局 令和4年度男女共同参画白書
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/index.html
- 男女共同参画局 令和3年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究 https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html

「多文化」が「共生」する社会とは？



☆講師プロフィール

氏名：申 惠媛（しん ひえうおん）

所属：宇都宮大学 国際学部 助教

略歴：

韓国ソウル市生まれ、2001 年来日。熊本や東京で学生時代を過ごす。東京大学大学院総合文化研究科にて博士（学術）を取得。東京大学教養学部附属教養教育高度化機構・特任助教を経て、2022 年より現職。専門は社会学、特に観光地化など新しい局面を迎える地域社会における「多文化共生」の研究に取り組んでいる。

1. 仕事の内容・研究テーマ

宇都宮大学国際学部で教育や研究に取り組んでいます。専門は社会学（特に移民・エスニシティ研究、都市社会学）。現在の研究テーマは、エスニック・ビジネスの集積地域におけるローカルな社会関係の再編です。これまでは主に東京都新宿区の「新大久保」と呼ばれるエリアをフィールドに調査・研究を進めてきました。韓流や K-POP のブームで知られる観光地化は、地域の人々にどのような影響を与えたのか。それは従来の「多文化共生」という枠組みから、あるいはそれを越えてどのように捉えることができるのか。こうした問いを立てて研究してきました。現在は引き続き、エスニック・ビジネス経営者の実践や、グローバル化・モバイル化の進むなかでの地域社会の変容などに関心を向けています。

2. キャリアパス

2001 年に韓国から来日し、日本国内でも東京→熊本→東京と移動しながら小中高大の学生時代を過ごしてきました。こうした確たる「地元」をもたない自分自身の経験が、（出自を問わず）移動する人たちがつくる社会への関心につながったのかもしれない。

大学では教養学部に進学し、社会学を軸に幅広い学問の世界に触れることができました。卒業論文では漠然と日本に暮らす移民をテーマにしたい、と考えていたところ、当時の指導教員の先生のすすめにより「新大久保」という地域と改めて出会います。その後、大学院の修士課程、博士課程と進みながら、研究の面白さと大変さの両方を噛み締めてきました。

2020 年からは東京大学特任助教として高大接続・リカレント教育のための公開講座運営を務めながら博士論文を書き進め、2022 年 4 月に宇都宮大学国際学部助教に着任しました。

3. 分科会の内容

近年、多様性の時代といわれ、さまざまな場面で多様性（ダイバーシティ）が奨励・推進されています。これから皆さんがどのようなキャリアを進むにせよ、何らかの形で多様性と向き合うことを余儀なくさ

れるでしょう。しかし、考えてみると近年称揚される「多様性」は、魅力的ながらもどこかふわふわとして曖昧なように思えます。これほど注目される以前には、「多様性」として包摂すべきとされる人々は存在していなかったのでしょうか？また、最近の「多様性」「ダイバーシティ」は楽しくポジティブな印象を与えますが、多様であるとは差異が存在することを意味します。「多様性」に光を当てるとき、その裏面にもとより横たわってきた、差異にもとづく不平等や差別が覆い隠されてはいないのでしょうか？

この分科会では、こうした「多様性の時代」を考えるひとつの手がかりとして、いつしか耳慣れた言葉になってきた「多文化共生」という言葉について改めて考えてみたいと思います。「多文化共生」自体、非常に広い射程をもつ言葉ですが、ここではひとまず「多文化」の内容を「外国人」ないし「移民」に由来するものに限定して考えてみましょう。この言葉は、どのような場面でどのように使用され、どのような広がりや課題をもってきたのでしょうか？日本社会における「多文化共生」を他の人に説明しようとするとき、どのように伝えれば良いのでしょうか？その方法を一緒に探っていきます。

4. キーワードリスト

多文化共生、多様性（ダイバーシティ）、オールドカマー／ニューカマー

5. 参考資料等

- ナディ、2019、『ふるさとって呼んでもいいですか：6歳で「移民」になった私の物語』大月書店。
- 深沢潮、2015→2019、『緑と赤』小学館。

1冊目はエッセイ、2冊目は小説。下記「予習用リーディング課題」の文献は、統計資料や政策等を通じて、または概念的に「多文化共生」を考えるための資料ですが、もう少し身近に感じるところから考えてみたい人におすすめの二冊です。これらを読むことで、下記課題文献の理解も深まるでしょう。どちらも可愛い表紙とは裏腹に考えさせられることが多く、気持ちの余裕があるときに読んでみてください。

6. 事前予習用リーディング課題

- 永吉希久子、2020、『移民と日本社会：データで読み解く実態と将来像』中央公論新社。
→このうち、「序章 移住という現象を見る」(pp. 3-22)
- 高谷幸、2021、「移民・多様性・民主主義：誰による、誰にとっての多文化共生か」岩渕功一編著『多様性との対話』青弓社、pp. 68-92。
- 小内透、2007、「外国人集住地域の現実と共生の視点」『調査と社会理論』・研究報告書、23、pp. 1-13。（*専門用語も多く難しく感じると思いますが、大まかな内容をつかんでみてください）

以上の文献をもとに、次の課題に取り組んでください。

- (1) 以上3つの文献を読む前に、「多文化共生」という言葉に対するイメージや、関連して自分が知っていることを300字程度でまとめてみましょう。
- (2) 以上3つの文献を読んだ後に、(1)でのイメージが変化した場合は、どのように変化したのかを300字程度でまとめてみましょう。イメージがあまり変わらなかった場合は、文献を通じて新しく知ったことを書き出してみてください。
- (3) 以上3つの文献の内容で、よくわからなかった箇所や、話し合ってみたいと思った箇所があれば、メモしておいてください。

2022 年度国際キャリア教育セミナー
「国際キャリア教育」事前学習資料集

発行日：2022年7月1日

発行：宇都宮大学 国際学部

〒321-8505 宇都宮市峰町 350

TEL: 028(649)5172 FAX: 028(649)5171

E-mail: kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

学部		学科	
学年		氏名	